

町田市「子育てに関するニーズ調査」結果概要

2014年2月27日

町田市子ども生活部

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、市民の保育サービスや子育て支援、子どもの日常生活に関する実態や要望・意見等を把握し、子ども・子育て支援法第 61 条に基づく『町田市子ども・子育て支援事業計画』策定の基礎資料を得ることを目的とする。

(2) 調査の種類

本調査は、以下の 2 種類の調査を実施した。

- ①就学前児童（0～5 歳）の保護者調査
- ②小学生（小学 1～3 年生）の保護者調査

(3) 調査の設計

2 種類の調査は、以下のように設計した。

■調査の設計

調査種別	項目	内容
①就学前児童の保護者調査	調査対象	市内在住の就学前児童（0～5 歳）の保護者
	対象者数	3,000 人
	抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
	調査方法	郵送配布・郵送回収（礼状形式の督促 1 回実施）
	調査時期	平成 26 年 1 月 14 日～1 月 28 日
②小学生の保護者調査	調査対象	市内在住の小学 1 年生～3 年生の保護者
	対象者数	2,000 人
	抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
	調査方法	郵送配布・郵送回収（礼状形式の督促 1 回実施）
	調査時期	平成 26 年 1 月 10 日～1 月 28 日

(4) 回収結果

回収結果は以下のとおりである。

■回収結果

調査種別	配布数	有効回収数	回収率
①就学前児童の保護者調査	3,000	1,841	61.4%
②小学生の保護者調査	2,000	1,146	57.3%

2. 子どもの育ちをめぐる環境について

(1) 子育てに日常的に関わっている人（就学前児童 P 4 の問 7）

子育てに日常的に関わっている人は、就学前児童の保護者では「母親」が最も多く 92.8%、次いで「父親」が 49.4%、「幼稚園」が 29.3%、「認可保育園」が 24.4%、「祖父母」が 21.7%

となっている。

(2) 子どもをみてもらえる人

① 子どもをみてもらえる親族・知人の有無（就学前児童 P 4 の問 8）

子どもをみてもらえる親族・知人の有無は、就学前児童の保護者では「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が最も多く 61.3%、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」がともに 20.0%、**「いずれもない」が 14.4%**、「日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる」が 2.9%と続いている。

② 祖父母や友人・知人にみてもらっていることへの感じ方

ア. 祖父母にみてもらっていることへの感じ方（就学前児童 P 4 の問 8-1）

子どもをみてもらえる人の有無で「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」と回答した人の祖父母にみてもらっていることへの感じ方は、就学前児童の保護者では「祖父母等の親族に安心して子どもをみてもらえる」が最も多く 70.7%となっているが、「祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である」（27.9%）、「親として、負担をかけていることが心苦しい」（21.9%）、「祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」（18.5%）もそれぞれ約 2 割～約 3 割を占めている。

イ. 友人や知人にみてもらっていることへの感じ方（就学前児童 P 4 の問 8-2）

子どもをみてもらえる親族・知人の有無で「日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる」「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」と回答した人の友人や知人にみてもらっていることへの感じ方は、就学前児童の保護者では「友人・知人の親族に安心して子どもをみてもらえる」が最も多く 60.7%となっているが、「親として、負担をかけていることが心苦しい」（28.1%）、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」（21.2%）も 2 割～約 3 割を占めている。

③ 子育てを協力してくれる人の有無（就学児童 P 4 の問 6）

小学生の保護者で子育てを協力してくれる人が「いる」と回答した人は 62.7%、「いない」と回答した人は 36.6%となっており、子育てを協力してくれる人が「いる」と回答した人の同居の状況は、「同居している」が 42.1%、「同居していない」が 55.2%となっている。

(3) 子育てについて気軽に相談できる人・場所

① 子育てについて気軽に相談できる人・場所の有無（就学前児童 P 4 の問 9）

子育てについて気軽に相談できる人・場所が「いる/ある」と回答した人は 94.0%、**「いない/ない」と回答した人は 4.0%**となっている。

② 子育てについて気軽に相談できる人・場所（就学前児童P4の問9-1）

子育てについて気軽に相談できる人・場所が「いる/ある」と回答した人の相談先は、「友人や知人」が最も多く80.2%、「祖父母等の親族」（79.3%）もほぼ同じ割合を示している。次いで「近所の人」が18.9%、「地域子育てセンターや認可保育園」が18.6%、「幼稚園」が15.8%と続いている。

3. 保護者の就労状況について

(1) 就労状況

① 母親の就労状況（就学前児童P4の問11（1）、小学生P5の問7（1））

母親の就労状況は、就学前児童の保護者では「フルタイム」「フルタイムで、現在産休・育休・介護休暇中」「パートタイム・アルバイト等」「パートタイム・アルバイト等で、現在産休・育休・介護休暇中」を合わせた **“就労している”が45.4%**、「以前は就労していたが、現在は就労していない」と「これまでに就労したことがない」を合わせた **“就労していない”が52.6%**となっている。

小学生の保護者では、「フルタイム」「フルタイムで、現在産休・育休・介護休暇中」「パートタイム・アルバイト等」「パートタイム・アルバイト等で、現在産休・育休・介護休暇中」を合わせた **“就労している”が53.2%**、「以前は就労していたが、現在は就労していない」と「これまでに就労したことがない」を合わせた **“就労していない”が44.0%**となっている。

② 父親の就労状況（就学前児童P6の問11（2）、小学生P7（2））

父親の就労状況は、就学前児童の保護者・小学生の保護者とも「フルタイム」が最も多く就学前児童の保護者が79.5%、就学児童の保護者が74.8%となっている。

(3) フルタイムへの転換希望

① 母親（就学前児童P7の問12（1）、小学生P10の問8（1））

母親の就労状況で「パートタイム・アルバイト等」「パートタイム・アルバイト等で、現在産休・育休・介護休暇中」と回答した人のフルタイムへの転換希望は、就学前児童の保護者では「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」と「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」を合わせた **“フルタイムへの転換希望がある”が40.1%**、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」と「パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい」を合わせた **“フルタイムへの転換希望がない”が57.0%**となっている。

小学生の保護者では、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」と「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」を合わせた **“フルタイムへの転換希望がある”が37.3%**、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」と「パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい」を合わせた **“フルタイムへの転換希望がない”が61.1%**となっている。

② 父 親（就学前児童 P 7 の問 12（2）、小学生 P 10 の問 8（2））

父親の就労状況で「パートタイム・アルバイト等」「パートタイム・アルバイト等で、現在産休・育休・介護休暇中」と回答した人のフルタイムへの転換希望は、就学前児童の保護者では「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」と「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」を合わせた“フルタイムへの転換希望がある”が 53.9%、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が 23.1%となっている。

小学生の保護者では、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」がともに 50.0%となっている。

(3) 就労希望

① 母親（就学前児童 P 7 の問 13（1）、小学生 P 10 の問 8（1））

母親の就労状況で「以前は就労していたが、現在は就労していない」「これまでに就労したことがない」と回答した人の就労意向は、就学前児童の保護者では「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が 25.2%、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が 25.7%、「1年より先に就労したい」が 46.0%となっている。

小学生の保護者では、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が 23.8%、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が 31.5%、「1年より先に就労したい」が 29.7%となっている。

② 父 親（就学前児童 P 8 の問 13（2）、小学生 P 11 の問 8（2））

父親の就労状況で「以前は就労していたが、現在は就労していない」「これまでに就労したことがない」と回答した人の就労意向は、就学前児童の保護者では「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が 7.7%、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が 61.5%、「1年より先に就労したい」が 7.7%となっている。

小学生の保護者では、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が 85.7%、「1年より先に就労したい」が 14.3%となっている。

(4) 希望する就労形態

① 母 親（就学前児童 P 8 の問 13（1）、就学児童 P 10 の問 8（1））

母親の就労意向で「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」「1年より先に就労したい」と回答した人の希望する就労形態は、就学前児童の保護者では「フルタイム」が 10.4%、「パートタイム・アルバイト等」が 89.2%となっている。

小学生の保護者では、「フルタイム」が 2.3%、「パートタイム・アルバイト等」が 95.8%となっている。

② 父 親（就学前児童 P 8 の問 13（2）、就学児童 P 11 の問 8（2））

父親の就労意向で「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」「1年より先に就労したい」と回答した人の希望する就労形態は、就学前児童の保護者では「フルタイム」

が 88.9%、「パート・アルバイト等」が 11.1%となっている。

小学生の保護者では、「フルタイム」が 100.0%となっている。

(5) これまでのまとめ

保護者の就労状況、フルタイムへの転換希望、フルタイムへの就労意向を整理すると、フルタイムへの転換希望やフルタイムへの就労意向の増大により、就学児童の保護者に比べて就学前児童の保護者の保育ニーズの増大が見込まれる。

■ これまでのまとめ

区 分	回答者数	フルタイム就労 (産休・育休・介 護休暇中含む)	フルタイムへの 転換希望あり、実 現できる見込み	未就労者のフル タイムへの就労 希望	合 計
就学前児童					
母 親	1,839 人	455 人	30 人	72 人	557 人
父 親	1,757 人	1,401 人	4 人	8 人	1,408 人
小学生					
母 親	1,139 人	207 人	27 人	7 人	241 人
父 親	1,071 人	801 人	0 人	7 人	808 人

4. 保育サービス等の利用状況と利用意向について

(1) 定期的な教育・保育事業の利用状況（就学前児童 P 9 の問 14、問 14-1）

定期的な教育・保育事業を「利用している」人は 64.3%、「利用していない」人は 34.4%となっている。

定期的な教育・保育事業を「利用している」と回答した人の利用している教育・保育事業は、「幼稚園」が最も多く 51.4%、次いで「認可保育園」が 39.3%、「幼稚園の預かり保育」が 8.8%と続いている。

(2) 定期的な教育・保育事業の利用意向

① 定期的な教育・保育事業の利用意向（就学前児童 P 12 の問 15、P 13 の問 15-2）

定期的な教育・保育事業の利用意向は、「幼稚園」が最も多く 63.3%、次いで「認可保育園」が 44.6%、「幼稚園の預かり保育」が 43.7%、「延長保育」が 27.5%、「認定こども園」が 23.0%と続いている。

このうち、一番利用したい事業は、「幼稚園」が 48.0%、「認可保育園」が 33.7%となっている。

(3) 小学生になったときの放課後の過ごし方

① 放課後の過ごし方（就学前児童 P 22 の問 26、小学生 P 13 の問 14）

小学校にあがったときの放課後の過ごし方は、「自宅」が最も多く 54.5%、「習い事」(53.8%) もほぼ同じ割合を示している。次いで **「学童保育クラブ」が 49.6%**、「放課後子ども教室」が 20.5%、「祖父母宅や友人・知人宅」が 19.2%と続いている。

小学生の放課後の過ごし方は、「自宅」が最も多く 71.6%、「習い事」(68.5%) もほぼ

同じ割合を示している。次いで「その他（図書館、公園など）」が 28.5%、「学童保育クラブ」が **23.8%**、「祖父母宅や友人・知人宅」が 21.6%と続いている。

② 小学校高学年になったときの放課後の過ごし方（就学前児童 P24 の問 27、就学児童 P16 の問 15）

小学校高学年になったときの放課後の過ごし方は、「習い事」が最も多く 69.2%、次いで「自宅」が 61.5%、「学童保育クラブ」が **33.3%**、「放課後子ども教室」が 21.7%、「祖父母宅や友人・知人宅」が 21.6%と続いている。

小学生の高学年になったときの放課後の過ごし方は、「習い事」が最も多く 77.5%、次いで「自宅」が 67.6%、「その他（図書館、公園など）」が 35.0%、「まちとも、地域子ども教室」が 22.7%、「祖父母宅や友人・知人宅」が 20.5%、「学童保育クラブ」が **19.5%**となっている。

5. 学童保育クラブについて

(1) 学童保育クラブの認知度（小学生 P12 の問 10）

学童保育クラブの認知度は 99.0%となっている。

(2) 学童保育クラブの必要性（小学生 P12 の問 11、問 12）

小学校低学年の子どもの学童保育クラブの必要性は、「保護者が安心して働くためには必要だと思う」が最も多く 94.2%、次いで「学童保育クラブではなく、放課後に誰でも利用できる居場所が必要だと思う」が 49.0%、「児童の健全な育成のためには必要だと思う」が 41.3%となっている。

小学校高学年の子どもの学童保育クラブの必要性は、「保護者が安心して働くためには必要だと思う」が 60.7%、「学童保育クラブではなく、放課後に誰でも利用できる居場所が必要だと思う」（57.0%）もほぼ同じ割合を示している。次いで「保護者にとっては必要だと思うが、行くかどうかは子どもが決めるべきだと思う」が 32.5%、「児童の健全な育成のためには必要だと思う」が 28.4%と続いている。

(3) 学童保育クラブを利用していない理由、学童保育クラブを必要としない理由（小学生 P26 の問 17）

小学校低学年及び高学年に学童保育クラブを選択しなかった人の学童保育クラブを利用していない理由は、「必要がないから」が最も多く 69.5%、次いで「利用したいが要件を満たせないから」が 18.8%となっている。

学童保育クラブを利用していない理由で「必要がないから」と回答した人の学童保育クラブを必要としない理由は、「保護者が家にいるから」が最も多く 84.8%、次いで「留守番できるから」が 22.4%、「習い事に行かせるから」が 18.3%、「面倒を見てくれる人がいるから」が 18.0%と続いている。